

1. 授業の目的と概要

初歩の理解を目指す学部レベルのマクロ経済学と、実際の経済分析や政策立案に用いられる大学院レベルのマクロ経済学では、経済主体の行動を所与の行動方程式に従うと仮定するか、ミクロ経済学と同様に目的関数を最大化するように行動すると考えるかという点で大きな違いがある。また、マクロ経済学では異時点間の消費・貯蓄・投資行動に注目することから、動学的な最適化を理解し、使いこなせるようになることが、各応用フィールドの学習や国際ジャーナルに掲載される論文を読むための必須の知識である。本授業では、中級マクロ経済学に引き続き、大学院レベルで必要とされるマクロ経済学の標準的なツールと分析方法を講義する。さらに、得られた知識を演習を通じて自ら使いこなせるよう身につける。

2. 学習の到達目標

世界のほとんどの大学で専門的な学習に進むために必須の知識と考えられており、また国際機関・各国中央銀行等におけるエコノミストにとっても最低限の共通言語となっている、修士コアコースレベルのマクロ経済学を習得することを目標とする。それにより、受講者が研究あるいは政策分析のスタートポイントに立つことを目指す。

3. 授業の内容・方法と進度予定

当授業では下記のトピックをカバーする予定。ただし、実際の進度に応じてトピックを取捨選択する可能性がある。各トピックについて、講義及び演習を交互に行う。

1. 連続時間における無限期間の最適化
*ハミルトニアンを用いた最大化原理 (Optimal Control Theory) を習得する
2. 人的資本形成と経済成長
3. 多数の財の導入と、Dixit-Stiglitz 型独占的競争モデル
4. Variety Expansion 型内生的成長理論
5. シュンペーター型創造的破壊理論
6. 不確実性のもとの期待形成と最適化
*確率的動的計画法 (Stochastic DP) と Hamilton-Jacobi-Bellman 方程式を習得する
7. 確率的成長モデルとリアル・ビジネス・サイクル理論

4. 成績評価方法

期末試験及び課題 (演習セッションにおける発表を含む)

5. 教科書と参考書

Daron Acemoglu (2009) *Introduction to Modern Economic Growth*, Princeton University Press (履修者は IPEM 図書コーナーからの貸出が可能です) .

6. 予習と復習について

指定された演習問題を毎週こなしてこることが求められる

7. その他 (使用言語、履修の条件、連絡先、オフィスアワー等)

- ・ 言語：講義は日本語で行います。課題の提出は日本語・英語ともに可。
- ・ 履修の条件：中級マクロ経済学を履修済みであること。
- ・ 連絡先：ホームページ www.econ.jpn.org/horii/ を参照のこと
- ・ オフィスアワー：初回授業時に連絡します



